

VP (Vulnerable Plaque)

佐賀大学 医学部 循環器内科 | 園田信成

はじめに

今回CVIT2023において、インターベンションのSDGsの重要なテーマの1つとしてVulnerable plaque (VP) を取り上げ、丸一日どっぴりとVPに浸かって頂くプログラムを用意している。

ご存じのように虚血性心疾患は、薬物療法やインターベンション治療の大きな進歩にも関わらず、世界中で非常に高い罹患率、死亡率を呈する疾患の1つである。我々はこれまでに、急性冠症候群(ACS)の原因となりうるような、脆弱性が高く、進行の速いプラーク(いわゆるハイリスクプラーク)を、侵襲的、非侵襲的に評価し、流体力学を含めた包括的なアプローチにより、高い予知力をもって同定することを目標としてきた。その診断には、一般的に冠動脈CT、血管内超音波検査(IVUS)や光干渉断層法(OCT)等の画像診断技術が用いられ、その治療には抗血小板療法・スタチン等の薬物療法やバルーン治療やステント留置術等が行われているのが現状である。しかしながら、それらの診断陽性的中率は良くても50%前後に過ぎないことから、今後はマルチモダリティを互いに補完させて、ACSの根本原因を総合的に理解することで、更なる発展と予知力向上が期待され

ており、本シンポジウムが、今後のVP診断と治療において何らかの道標となることを願っている。

Program委員

大塚頼隆 (福岡輝栄会病院)
 桑野孝志 (福岡大学病院)
 久米輝善 (川崎医科大学附属病院)
 西平賢作 (宮崎市群医師会病院)
 佐々木健一郎 (久留米大学病院)
 園田信成 (佐賀大学医学部循環器内科)

プログラム全容

当日のプログラムの全容を図1に示す。まずは皆様にVPの基礎から学びなおして頂きたいと考えている。セッション最初のテーマは「Plaque ruptureを深掘りする！」である。ACSは、その機序としてPlaque rupture、Plaque erosion、Calcified noduleが知られているが、それぞれを深掘りしながら、今何が分かっている、残された課題は何なのかを明らかにしていく。

プログラムの全容
 病理診断や各種モダリティ、AI、治療(PCI/OMT)等がテーマ。
VP1-3: 病態毎に「病理、エビデンス、治療・予防」についてしっかりと学ぼう!
VP1: plaque ruptureを深掘りする!
VP2: Plaque erosion/Layered plaqueに迫る!
VP3: Calcified nodule徹底討論!

VP4: VP診断のすべて、と題してKeynote lecture (Virmani先生、前原先生)を聴き、各種モダリティを融合させてVPの本態にいかに向けるのか?、について公募で選ばれた症例から学びます!
VP5: VP診断・治療の現状と未来、と題してLRPスタディのWaksman先生のレクチャーの後に、Debate形式で「ACS非責任病変の診断・治療をどうする?」を討論。
VP6: 最後にCVIT2023の大目玉! VP討論会です。世界の大御所が集結して激論?!

図1